

## 一以貫之

「いちもってこれをつらぬく」

## 八幡工業高等学校

この言葉は孔子（紀元前 551～紀元前 479）と弟子との言行をまとめた「論語」に出てくる言葉です。孔子は春秋時代という乱世の時代に諸国を巡り、人間愛や礼節を基調とした理想の政治を提言するのですが当時の政治家からは顧みられず、後半生は弟子の育成に専念しました。孔子の思想は漢の時代に評価をされ、以後今日にいたっています。

孔子はこの論語の中で二度にわたって「我が道は一以て之を貫く」つまり「私は人生を通じて一つのことを貫いて生きてきた」と弟子に語っています。後世の人は、孔子が貫いたのは真心や思いやりをもった道徳的な生き方だったと説明しています。

一方、この部旗の文字は明治・大正時代の剣道の大家、内藤高治先生揮毫のものです。

内藤先生は江戸時代の末期に水戸藩で生まれ、北辰一刀流、直心影流などを学び、警視庁勤務を経て、明治32年京都の大日本武徳会本部に師範として招かれ、その後武道専門学校で剣道の指導に当たられました。当時、東京高等師範学校で剣道を教えておられた高野佐三郎先生とともに「西の内藤、東の高野」と並び称されておられたのです。

現滋賀県高体連剣道専門委員長の杉浦知康先生が八幡工業剣道部の顧問をしておられたとき、内藤先生のこの文字の原本を所有しておられる正春武道具社長の了解を得て、この文字を写した部旗を新調されたと聞き及んでいます。

以後、この飾り気を排した力強い筆づかいの内藤先生の文字に「剣道一筋に打ち込めよ」と励まされながら八幡工業の部員の人たちは努力を続けてきたでしょうし、今後もその伝統を引き継いでいくことと思います。

（この言葉の「一」という文字を「一つのこと」という意味を強調するために「いつ」と読むこともある。）